



薩摩川内市

冷たい雨の中、41人が行動

戦争反対！ 4・19スタンディング

4月19日、「4・19国会正面前大行動」に呼応し、薩摩川内市でもスタンディング行動が取り組まれました。当日は断続的に冷たい雨が降るあいにくの天候でしたが、41人が参加し、思いを込めてプラカードを掲げました。



SNS上で全国によびかけられた集会案内バナー (= SNS上のチラシ)

呼びかけ人のピート マさんは、SNS(X)で「断続的に冷たい雨が降る中、41人も人にお集まりいただき、行動することができました。SNSやデモカレンダー掲載の情報を

見ておいでくださった人も多く、感激でした。ご参加くださった皆さま、ありがとうございます。感謝を述べています。

今回の行動は、SNSやインターネットを

市営住宅の共益費 —市の負担金に誤り

こちらくらしの相談所
(No. 647)
携帯 080-3996-0237
(井上)
なんでもご相談ください。

市営住宅の共益費をめぐり、市が負担すべき費用の一部を支払っていないことが明らかになりました。浄化槽の電気料金の一部(フロアー分)が計算に含まれておらず、管理組合への未払いが発生しています。

本来、空室が多い場合は市が一定額を負担

通じた呼びかけが新たな参加につながった点も特徴です。厳しい天候の中でも、市民が自らの意思で立ち上がり、

声を上げたことは大きな意義があります。市民一人ひとりの行動が、平和と民主主義を守る力となります。

し、入居者の負担が重くならない仕組みです。今回の誤りが、入居者の負担増につながっていないことが重要なポイントです。

市は今後、未払い分を支払うとしています。が、自分の住宅はどうか、負担は適正かなど、不安や疑問がある方はぜひご相談ください。

今後もうこうした取り組みの広がりが期待されます。

久見崎でベッコウトンボが今年も確認

ベッコウトンボ観察会

希少種・ベッコウトンボが、今年2026年も久見崎みらいゾーンで確認されました。4月20日、久見崎みらいゾーンそばの湿地帯(市有地)において観察会が行われ、希少野生動物植物種保存委員の今村久雄氏がベッコウトンボについて詳しく説明しました。

当日は、土地が土地開発公社の管理下にあるため立ち入り許可申請を行いました。直前の申請を理由に許可が下りず、農道からの観察となりました。

それでも参加者はおよそ20名。観察は午後1時30分開始。観察場所は農道から徒歩約5分。観察時間は午後2時から午後4時。観察料は無料。申し込みは4月15日まで。申し込み先は久見崎みらいゾーン管理センター(久見崎みらいゾーンそばの湿地帯)。

その10匹のベッコウトンボを確認しました。

分布拡大の兆し

これまでの調査経過を踏まえると、久見崎周辺は新たな生息拠点

となりつつあります。2024年に初確認されて以降、交尾・産卵

卵行動が複数地点で確認され、寄田町や周辺の池でも個体が見つかっています。

保全の課題が浮き彫りに

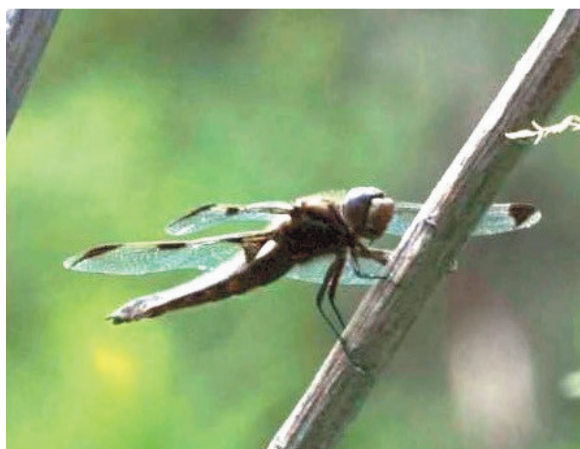
一方で、過去には調査直後に測量・埋め立てが行われた地点もあり、生息環境の保全が急務です。

今回の観察会では、行政管理地でありながら柔軟な立ち入り認められなかった点も課題として浮かび上がり

ました。

希少種の確認・保全活動と土地管理のあり方をどう調整するのか—今後の重要な論点です。

ベッコウトンボは環境のバロメーターともいえる存在です。この小さな命を守れ



成熟したオスのベッコウトンボ (= 20日、久見崎みらいゾーン近くの湿地帯 撮影 今村)

見崎みらいゾーン近くの諏訪神社駐車場に集合します。どなたでも参加できます。

次回観察会は、5月2日(土)午前11時

市ホームページでミサイル艇 宣伝―問われる自治体の姿勢

下甕・長浜港で行われる海上自衛隊ミサイル艇「おおたか」の一般公開。そのポスターが、薩摩川内市のホームページにも掲載され、来場が呼びかけられています。

ポスターには「予約不要・見学無料」「みんな来てね」と親しみやすい表現が並び、イベントとしての気軽さが強調されています。しかし、ミサイル艇は対艦ミサイルを搭載する軍事装備です。本来は戦闘を前提とした「武器」であり、その性格は決して軽いものではありません。

いま政府は、武器輸出のルールを大きく緩和し、戦闘機や護衛艦なども含めた輸出に道を開きました。国内で

軍事装備への親近感を広げる動きと、海外への武器輸出拡大が同時に進んでいます。こうした中で、自治



薩摩川内市のホームページに貼り付けてある「ミサイル艇おおたか」の一般公開を宣伝するポスター

体が公式ホームページで軍事装備の一般公開を積極的に紹介することは、単なる「情報提供」にとどまるのでしょうか。結果として、軍事を身近なものとして受け入れ

る空気を後押しするところにならないのか、慎重な検討が必要で、平和と暮らしを守るべき自治体の立場から見て、この対応は妥当なのか―市民的な議論が求められています。

今週の「シネマ太郎の映画評と案内」は休みます。

女性など幅広い層からの参加を求めました。さらに、特定の立場に偏らないよう、公募による市民参加や無作為抽出の導入も検討すべきだと提案しています。

井上委員は「議員報酬は市民の税金に関わる問題であり、市民の理解と納得が得られる仕組みが必要だ」として、市民の声を反映した透明性の高い審議を求めています。

議員報酬の見直しは市民生活にも影響する重要な課題です。今後の委員会での議論と審議会の構成が注目されます。

市民の納得を確保するためには、審議会の委員構成が極めて重要だとして、委員長あてにメールで提案文を提出しました。提案では、「市民代表」を形式的なものにとどめず、生活実感に根ざした多様な声を反映させる必要があると強調。労働者や医療・介護などの現場で働く人、中小事業者、子育て世代や若者、高齢者は、審議の公正性と

薩摩川内市議会の議員定数等調査特別委員会が議論される中、日本共産党の井上勝博委員は、議員報酬について特別職等報酬審議会へ諮問することに賛成しました。この問題は、4月28日の委員会では具体的な要請内容が協議される予定です。そのうえで井上委員は、審議の公正性と

エプロンおばさんの簡単クッキング (701)

グリーンピースのかき玉スープ



【材料 (2~3人分)】

グリーンピース (豆のみ) 約 1/2 カップ、卵 1 個、固形ブイヨン 1 個、A (酒小 2、塩少々)、B (かたくり粉・水 各小 1/2)

作り方

- 鍋に水 2 カップとブイヨン、グリーンピースを入れて、ふたをして中火で約 5 分煮る。豆がやわらかくなったら、A で味を調える。
- まぜた B を入れ、フツフツしている所に溶き卵を流し入れる。卵がふんわりとしたら、ふたをして火を止める。

議員報酬の審議へ市民の声を―井上勝博委員が委員構成で提案

中俣先生のつれづれなるままに (832)

「19日の日米首脳会談で、高市首相がトランプ大統領に抱き着いたしぐさが、同じ日本人女性としてすごく恥ずかしい。日本は大丈夫でしょうか」と、震える声で質問した人も。これは21日付『しんぶん赤旗』に載っていた記事である(高校生88人白熱2時間)。この女子高生のことばを待つまでもなく、日本中の国民が、日本外交大丈夫なの、の危惧を覚え恥ずかしさを感じたであろう。まさにアメリカにものが言えない、アメリカにべつたりの姿をさらけ出したもので、根底には日米安保の呪縛がある。高市首相の姿は、抱き着くことしか知らない外交である。「なにができてないができないか」はつきりすることであるとも言っているが、その姿は見えてこない。「できる」とは、日本憲法に則った平和外交であり、「できないこと」はトランプの戦争支持である。それを「トランプさんこそ平和ノーベル賞に値する」と言ってみたり(前回)、「平和をもたらせるのはドナルドだけ」と褒めたたえたり、国際法を無視し、先制攻撃を仕掛けたトランプ批判はどこ吹く風である。こんな媚を売る事が外交だと思っている高市を首相に祭り上げた日本人の恥さらしもいことだ。早く首相を辞めることが日本のためにもなるし、日本の品位を保つことにもなる。本当に情けない。昨日は救済会の会合に出たが、怒りで疲れが取れない一日となった。(詩愛好家)



←中俣先生のブログはこちら

